

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名 経済経営学類・准教授

申 請 者 名 荒 知 宏

助成事業の区分 (該当するものに 印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ 学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	学会報告(2017 Asian Meeting of the Econometric Society)
事業実施期間	平成 29 年 6 月 ~ 平成 年 月
成 果 の 概 要	<p>平成 29 年 6 月 2 日から 6 月 5 日にかけて、香港中文大学で開催された 2017 Asian Meeting of the Econometric Society に参加し、私はオーストラリアの University of New South Wales の Arghya Ghosh 教授との垂直特化と最適関税に関する共同研究“Tariffs, Vertical Oligopoly and Market Structure”を報告した。この学会は経済学の中では世界で最も大きな大会の 1 つであり、事前の査読を経て選ばれた 500 人以上の研究者が一堂に会して、それぞれの最新の研究を 3 日間に渡って報告した。</p> <p>私の報告セッションは、学会 1 日目の最後のセッションであったが、そこで学会よりセッションチェア(司会)を依頼され、各報告者の紹介を簡単に行った。また、私の報告は同セッションの最後であったが、参加者からは報告に対して幾つかのコメントを頂き、今後論文を改訂するうえで非常に有意義であった。</p> <p>私は自分の報告セッション以外にも参加したが、日本においては掴むことが難しい最近の研究動向を知ることができた。特に、私は経済理論を使って抽象的に議論することを主にやってきたが、世界的に見ると最近の研究は実際にデータを使って具体的に実証する研究が非常に大きなシェアを占めてきているようだった。今回の学会で報告した理論研究も日本と中国のデータを使って実際に検証してはいるが、世界の研究者がやっている研究は非常に細かいデータを使って精度の高いものが多かった。これから今回の学会で学んだ知識を使って、実際に自分の研究の幅を広げていくことができるように努めていきたい。</p> <p>最後に、今回の学会では普段接点がない世界中から集まった研究者と交流を持つことができたのも大きな成果の 1 つであると言える。今回構築した人脈を使って、今後共同研究をする可能性を模索していきたい。</p>